

本学の教育目的

本学は「人間力を有する高度ICT人材の育成」を教育目的としています。この目的を達成するために、ICTの基礎知識と専門技術力、ICTの応用分野の知見、および現実の社会課題を発見し解決する能力の3つを身につけます。この社会課題を発見し解決する能力のことを本学では「探究実践力」と呼んでいます。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）DP

所定の修学期間を通じて必要単位を取得し、ICT分野の知識と専門技術力、ICT応用分野の知見、更にはこれらを現実的な社会課題に応用して主体的に課題解決する手法を身につけたと判断できる学生には、「情報システム修士(専門職)」の学位が与えられます。より具体的には2つの人材像があります。

社会の課題に対し、自らICT技術を用いてシステム開発や維持管理などを行うことを通じて解決策が提供できる人材

社会の課題に対し、ICT技術を活用した解決策を立案し、ICT技術者の協力を得て、課題解決実践のリーダーシップが発揮できる人材

カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成方針)CP

本学のカリキュラム体系を、大きく3つの領域で構成しています。

- ① ICTの知識と専門技術力を修得する「ICT技術系科目」
- ② ICTの応用分野の知見を得る「ICT応用系科目」
- ③ 実際にICTを活用して社会課題の解決を図る「探究実践系科目」

①、②の領域については、各学生の経験と志向に応じて選択できるように構成されています。科目の多くは、理論や手法を講義で学び、演習を行って修得し、さらには実践に近いケースで、学生が課題解決に主体的に取り組む「アクティブラーニング」形式で行われることが特徴です。

③については全学生が必修であり、「探究実践演習」で基本的な概念・スキルを習得した後に、「特定課題研究」で、各学生が自ら興味のある課題分野について、テーマの発見、解決策の仮説の構築、仮説の検証、およびICTを用いた解決策の実施と効果検証、を教員の指導のもとに主体的に実践し、この結果を論文としてまとめ、発表します。

アドミッション・ポリシー(入学者受入方針) AP

ICTの経験・知識をすでに持つ人はもちろん、それに限らず、「ICTを活用して社会課題を解決する」目的意識を有し、学習意欲の高い人を広く受け入れる方針です。新卒の学生はもちろん、すでに社会人経験のある学生も国内外より求めます。

受験資格としては大学卒およびそれと同等とみなされる学習経験のある人となります。また授業はクラスにより日本語または英語で行われます。選択するクラスにより、日本語または英語の語学力が必要です。